

名古屋市「地域づくり」セミナー第3回 参加印象記

私が今回参加したのは、本セミナーの第1回（2015.6.14開催）に参加した際、地域づくりを実践されている報告者のリアルなお話と、様々な立場の参加者間の積極的な交流に大変刺激を受けたからです。今回は、商店街の活性化について単に議論するのではなく、「よそ者・若者・馬鹿者による『まちづくり』実践ストーリー」のタイトルの通り、外部者の視点をもったお二人のスピーカーをお迎えしました。当日は高校生から年配の方まで、幅広い年齢層の約35名が、アットホームな雰囲気のなか議論を深めました。以下に、その概略を記します。

報告① 原田忠直氏「覚王山商店街の秘密－愚者への誘い－」

日本福祉大学経済学部准教授でもある原田氏であるが、当日は、覚王山商店街振興組合の理事としてお話をいただいた。覚王山商店街でビーズ・アクセサリーの店舗を出店されている原田さんのお話は、外部者の視点と内部者の視点のバランス感覚が優れており、言葉に説得力があった。

雑誌の特集などで「名古屋で住みたい町ナンバーワン」としてしばしば取り上げられる覚王山では、年間を通じてさまざまなイベントがおこなわれているが、原田氏はその舞台裏を紹介してくれた。覚王山商店街では月に1〜2回、お酒を飲みながら「おもしろ会議」が開かれ、今後の「何か面白いこと」を探り、イベントの確認作業をおこなう。飲食物は持ち寄りで、基本は自腹である。この実働部隊は、ただお酒を飲んでいるだけの集団ではなく、事務能力が非常に高い。会議で決まったことを計画書や予算組みなどで具体化し、理事会に提出。理事会で修正が行われ、実行される。このように「おもしろ会議」の実働部隊約10名（＋アルバイト2〜3名）で、2〜3万人規模のイベントを動かしているという。

原田氏のお話でとても印象的だったのが、「愚者は愚行を求める。愚行こそが人生を彩る」という点であった。すなわち、イベントは、愚者でなければできないのだという。なぜなら、イベントは儲からないからである。それに自腹で取り組むのは、経済合理性の欠落である。本当は、時間の浪費などせずに商売に勤しむ方が良い。ほとんど愚行といえるが、それこそが人生を充実したものにするのだという考えが根底に流れているのである。

質疑応答では、覚王山アパートについていくつか質問があり、家賃は安く設定しているが、入居者には入居条件として、イベントへの協力を約束していただいていることなどが原田氏から補足された。また、町づくりに不可欠な若者の存在について、「最近の若者は、町づくりに興味を示さない（めんどくさい、時間の無駄）、究極のところ、若者は、愚考を楽しむ大人の言葉しか聞かない」という考えは興味深かったが、さらに、「思考停止は良くない。考えることで人間は強くなる。どんな状況にあっても、考え抜くことが大切」というハンナ・アーレントの言葉を引用されていたことが印象に残った。原田氏自身、イベントを牽引されながら、成果は「他のメンバーの力」であることを強調されるなど、理想的なリーダーであるように感じた。

報告② 椎葉美耶子氏「桜山商店街に出会い 私たちの軸を探り深める」

第2報告は、2007年に名古屋市立大学経済学部を卒業した椎葉氏である。椎葉さんは在学中に岡田広司ゼミの活動として、桜山商店街で店舗審査（ホコリが残っていないか？社会貢献に繋がる活動をしているか？など約20項目によるお店のチェック）などに取り組んだほか、空き店舗を借りて八百屋を運営していたという。大学卒業後にシステムエンジニアとして民間企業に4年間勤めながら、大学時代の仲間を中心に「まちプロデュース」を立ち上げ、桜山商店街を中心として様々なイベント運営を行っており、夏祭り、美食なぞ解き、街コン、カレー祭りなど、各種イベントの企画運営をされてきた方である。町づくりの活動で培った集客のノウハウを活かしながら、街や企業、店舗向けの映像制作、名刺・チラシ・ウェブ制作などもされている。

椎葉氏が代表をつとめる「まちプロデュース」のコンセプトは、「人と人、人とまち、まちとまちをつなぐ」ことである。続けていくことに重きを置いており、「自分が大切にしている考え方を発信していくと、人が集まり、一緒に活動する大切な仲間が見つかる。アイデンティティを表現し、それが支持を集めることにやりがいを感じる」というのが報告の骨子であった。

お話の端々から、人の気持ちを大切にする椎葉氏のリーダーシップに感銘を受けた。おそらく、「椎葉さんを助けよう」と、自然発生的に「まちプロデュース」のファンクラブができてきたような状況も納得できた。結婚した女性、出産した女性も、「まちプロデュース」に関わり続けるなど、女性目線が大きな武器になっているようにも思われた。椎葉氏の産休中は、桜山商店街の方やファンクラブの方が代わりにイベントを立ち上げて、「まちプロデュース」の活動を継続されるなど、「まちプロデュース」の存在が地域から大切にされていることが印象的であった。

全体を通じて

原田氏、椎葉氏の共通点として、周りに優れた人材が集まり、それらの人たちが個性を自由かつ最大限に発揮されて、覚王山商店街振興組合、まちプロデュースのイベント推進の大きな力となっていると思いました。

セミナー終了後の交流会（懇親会）では、主催者・報告者・参加者の方々と交流を深めることができました。情報交換ができる絶好の機会でもあり、私も今回、探していた施設についてのアドバイスを椎葉氏からいただき、実際に理想的な施設を見つけることができました。次回も「地域づくり」セミナーに参加したいと思います。

名古屋市立大学大学院人間文化研究科院生 渡邊